

鉱物模型クラフト

琵琶湖博物館

【つくり方】

これは、^{こうぶつ} 鉱物の^{きほんてき} 基本的な^{かたち} 形のいくつかの^{もけい} 模型を、^{かみ} 紙で^{つく} 作ろうとするものです。
^{いんさつ} 印刷して、^き 切り^と 取って^く 組み^た 立ててください。^{かみ} 紙は^{あつ} やや^よ 厚いものの^{ほう} ほうが^{よい} 良いでしょう。
^{ひつよう} 必要なものは、^{いんさつ} 印刷した^{かみ} 紙、^{はさみ} はさみ（または^{かッター} カッター）、^{テープ} テープ

1. ^{じっせん} 実線をはさみで切る
2. ^{てんせん} 点線にそって^お いる。点線は、^{ぜんぶ} 全部を^{やま} 山おりに^{する} か、^{やま} 谷おりに^{する} かです。
^{かんせい} 完成した時に^と 点線を^み みせないように^{する} なら^{やま} 谷おりが^{よい} よいです。
3. ^{かど} かどを^あ あわせるように^{して}、^く 組み^た 立てて^{テープ} テープで^と める
^{おな} 同じ^{ばんごう} 番号の^{かど} 角（^{せん} 線）を^あ あわせるように^く 組み^た 立ててください。^あ あわせる^{ばしょ} 場所の^{すべ} 全てに^{ばんごう} 番号
は^あ あつて^い ませんので、^{ばんごう} 番号は^く 組み^た 立てる^{ヒント} ヒントだ^{おも} と思って^{くだ} ください。

【出来上がりのイメージ】

^{ばんごう} 番号の¹ 1は^{せい} 正^{はちめんたい} 八面体、² 2は^{せい} 正^{ろくめんたい} 六面体（^{さい} さいころの^{かたち} 形）、⁴ 4は^{ひしがた} 菱形の^{ろくめんたい} 六面体、⁵ 5は^{せい} 正^{じゅうにめんたい} 十二面体で
^{すいしょう} すいしょうは^{さき} さきが^{ろっかく} とが^{ちゅう} った^{ろくかく} 六角柱だ^{という} という^{イメージ} イメージが^あ ありますが、^{クラフト} クラフトでは^{さき} さきは^と とが^つ っています
³ 3と⁶ 6の^{ちが} 違いは、⁶ 6の^{ほう} ほうが^{めん} 面の^お おお^さ さきが^{バラバラ} バラバラに^な なっている^点 点です。⁶ 6の^{かたち} 形は、^{琵琶湖} 琵琶湖
^{博物館} 博物館にある^実 実際の^{すいしょう} すいしょうを^{モデル} モデルに^{して} しています。

【解説】

^{かわら} 河原におちている^{がんせき} 岩石の^{おほ} おお^く 多くは、^{なんしゆるい} 何種類かの^{ちい} 小さい^{つぶ} 粒（^{こうぶつ} 鉱物）が^あ 集まって^{でき} ています。
それらの^{こうぶつ} 鉱物は、^と とても^{ちい} 小さ^{かつ} かったり、^{それ} それほど^{きれい} きれいな^は 見え^{ない} ないので、^注 注目を^あ 集める^{こと} ことは
^{ない} ないか^{もし} もし^れ ません。しかし、^{こうぶつ} 鉱物は^{しゆるい} 種類によって^り 理想的な^{かたち} 形と^い いう^{もの} ものがあり、^{その} その^{かたち} 形に^な なっ
^て ている^{こうぶつ} 鉱物は^{にんき} 人気がある^{よう} ようです。その^{よく} よく^し 知ら^{れた} れた^{こうぶつ} 鉱物の^{ひとつ} 一つに^{すいしょう} すいしょうが^あ あります。^{すいしょう} すいしょうは^{こうぶつ} 鉱物
^{の名} 名前ではなく、^{こうぶつ} 鉱物の^な 名前^{とし} としては^{せきえい} 石英と^い います。^{せきえい} 石英は、^か 花^{こう} こう^{がん} 岩をつ^く くる^{じゅうよう} 重要な^{こうぶつ} 鉱物の
^{ひとつ} 一つで、^か 花^{こう} こう^{がん} 岩の中^{なか} には^{バラバラ} バラバラの^{かたち} 形を^{して} しています。^{せきえい} 石英が^{とく} 特別な^{ばしょ} 場所^で で、^{理想的} 理想的な^{かたち} 形に^な なっ
^た たときに^{すいしょう} すいしょうと^よ よば^れ れます。ただし、^{こうぶつ} 鉱物^{によ} っては^{その} その^{理想的} 理想的な^{かたち} 形は、^数 数種類^あ ある^{ばあい} 場合があります
^あ あります。たとえば、^{ホタル} ホタル^{いし} 石や^{おうてつこう} 黄鉄^{れい} 鉱^{こうぶつ} 物などが^{その} その^{れい} 例^で で、^{この} この^{こうぶつ} 鉱物^{モデル} 模型^{クラフト} クラフトでも^あ 取り^あ げ^て います
^す す。

^{じっさい} 実際に^{もけい} 模型をつ^く って^{かんさつ} 観察^{して} みて^{くだ} さい。ここで^{しょうかい} 紹介^{した} した^{こうぶつ} 鉱物^は は、^ど どれも^{しがけん} 滋賀^県 県で^{みつ} つか
^る る^{もの} ものです。

^{こうぶつ} 鉱物^は は^と とても^{きそく} 規則^{ただ} 正しい^{かたち} 形^を を^{して} います。たとえば、^{すいしょう} すいしょう^{れい} 水晶^を を^{れい} 例^に に^す ると、^{ちが} ま^つ たく^{ちが} 違^う う^{かたち} 形^を を^し っ
^て いる^{よう} ように^み 見^え ても、^{とな} 隣^あ あ^め ん^{かな} 合った^{めん} 面^は は^{必ず} 必ず^{きそく} 規則^{ただ} 正しい^{かど} 角度^に に^な なっ
^て います。これは、^{やや} やや^{むつ} むつ^か かしい^{はなし} 話^に に^な なりますが、^{こうぶつ} 鉱物^が が^{けつしょう} 結晶^{である} である^{こと} ことと^{かんけい} 関係^{して} しています。^{こうぶつ} 鉱物^は は、^{それ} それを^{つく} っ
^て いる^{げんし} 原子^が が^{きそく} 規則^{ただ} 正しい^{なら} 並^{んで} 並^{んで} ^あ あ^わ わ^さ っ^て て^{でき} ています（つまり^{けつしょう} 結晶^の の^{じょうたい} 状態）。^{こうぶつ} 鉱物^の の^{しゆるい} 種類^は は、^{こう} 鉱
^{ぶつ} 物をつ^く くる^{げんし} 原子^の の^{しゆるい} 種類^{でも} でも^わ わ^け け^ら れ^ま すが、^{げんし} 原子^の の^あ あ^ら び^か 方^{でも} でも^{ちが} 違^う う^{かたち} 形^に に^な なります。^{こうぶつ} 鉱物^の の^{でき} 方^に に
^あ 興味^が がある^人 人は、^{こうぶつ} 鉱物^{の本} 本で^あ 調^べ て^{みて} くだ^{さい} さい。

鉱物模型クラフト

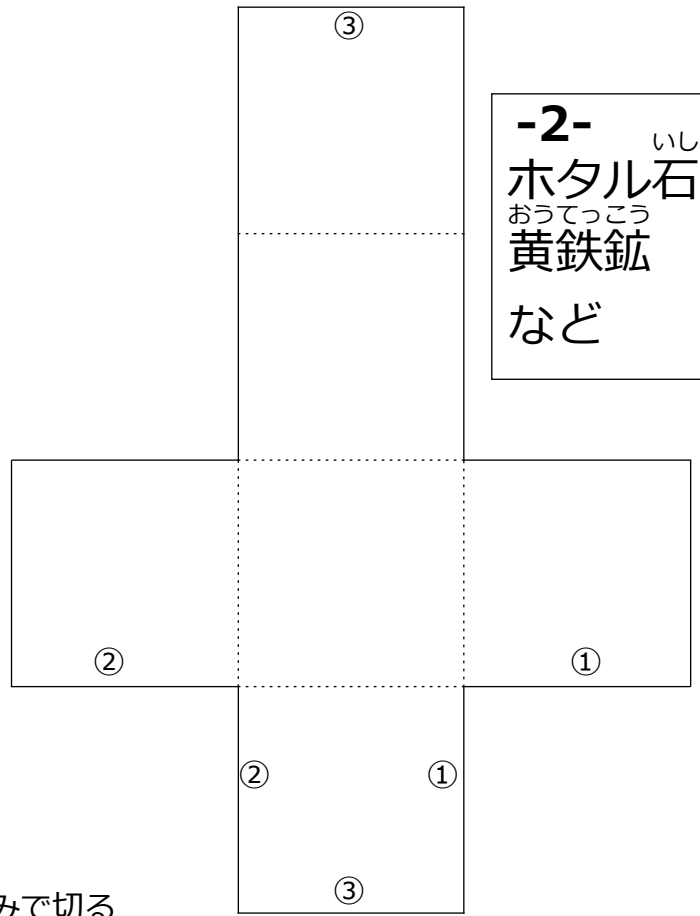
琵琶湖博物館

-1-

いし
ホタル石
黄鉄鉱
磁鉄鉱
など



-2-
いし
ホタル石
おうてっこう
黄鉄鉱
など

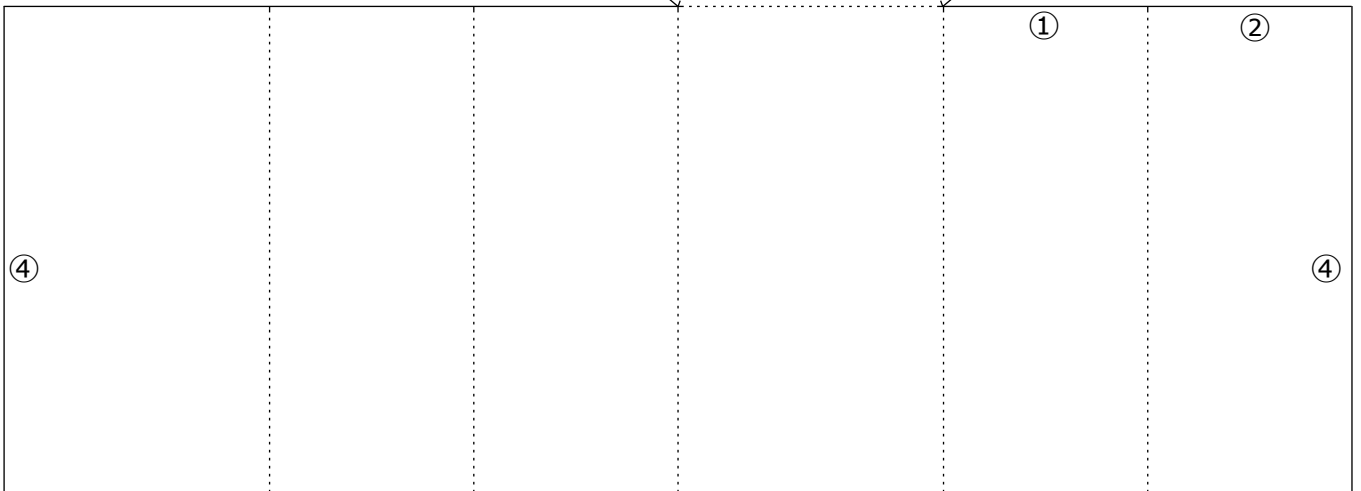


つくりかた

1. 実線をはさみで切る
2. 点線にそっておる
(全部山おり、完成した時に点線
をみせないようにするなら谷おり)
3. かどをあわせるようにして、
組み立ててテープでとめる
(同じ番号を合わせる)

-3-

すいしょう (せきえい)
水晶 (石英)

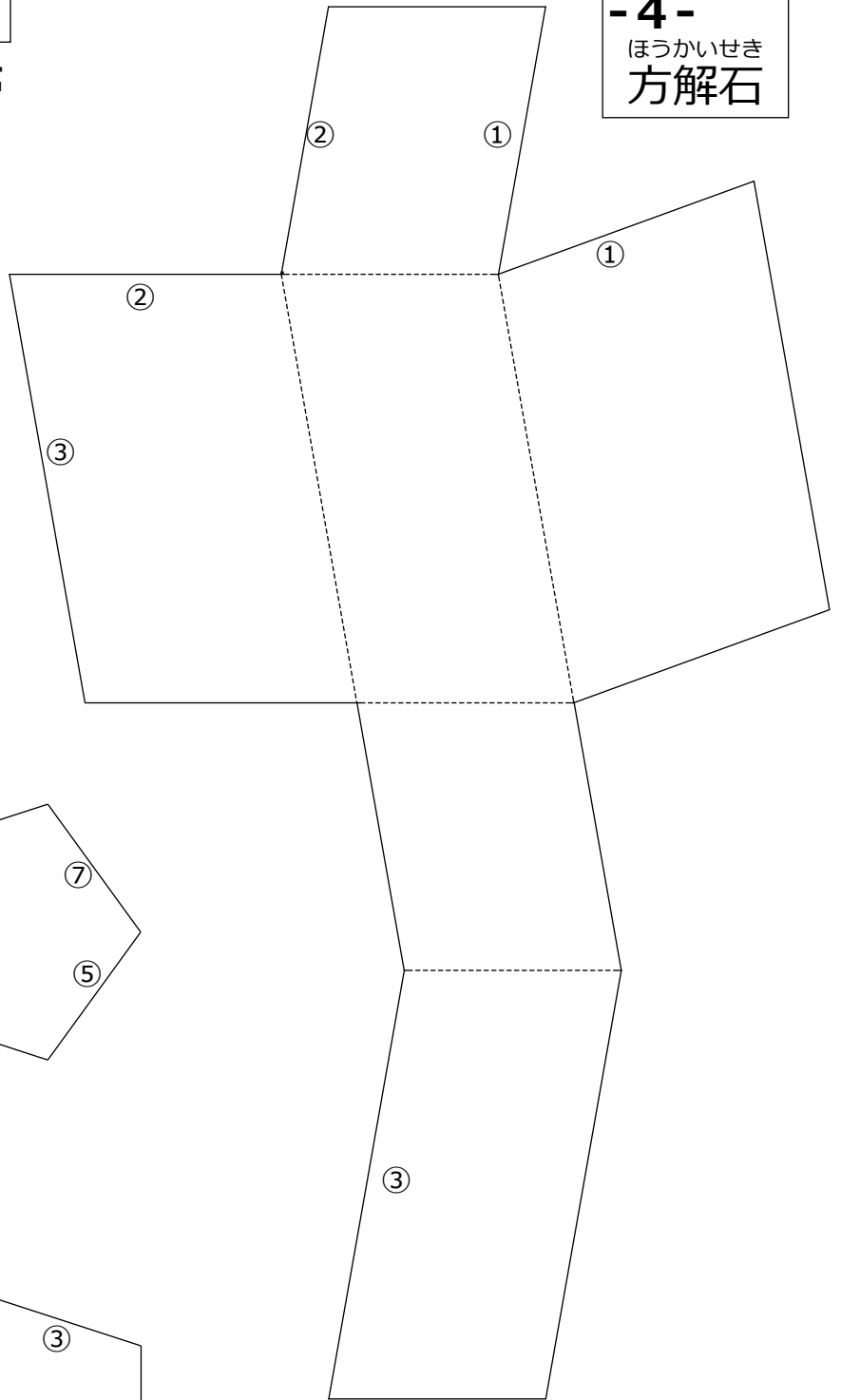
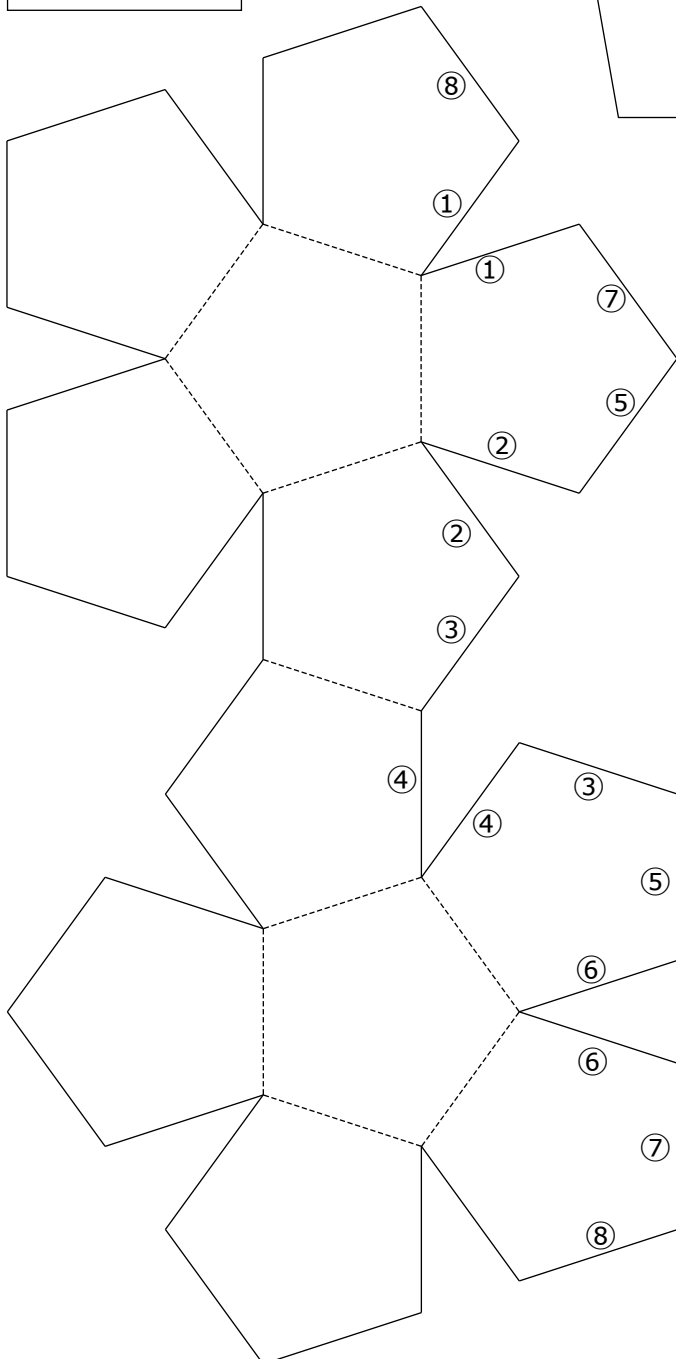


鉱物模型クラフト

琵琶湖博物館

-4-
ほうかいせき
方解石

-5-
いし
ザクロ石
おうてっこう
黄鉄鉱
など

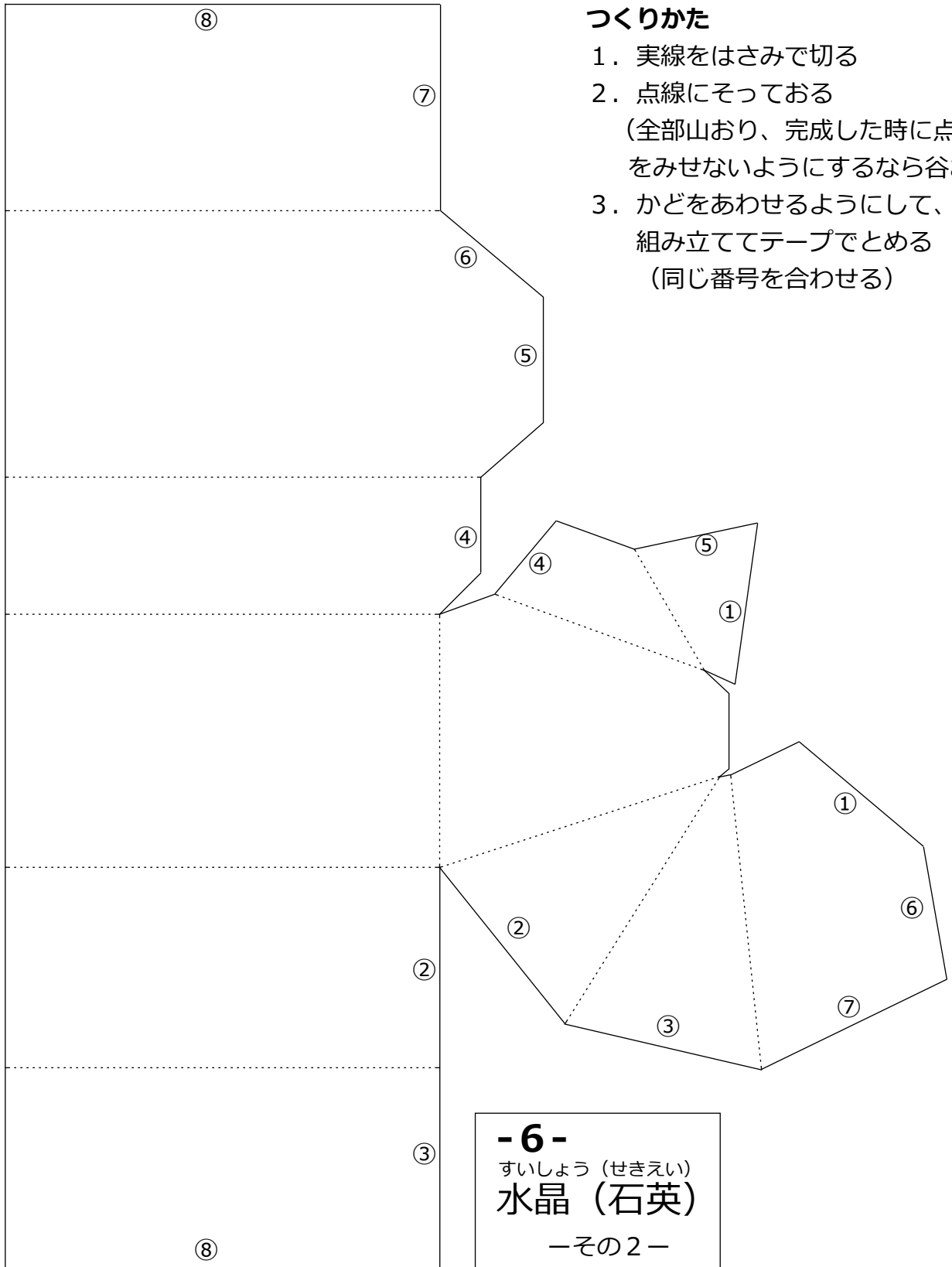


つくりかた

1. 実線をはさみで切る
2. 点線にそって切る
(全部山おり、完成した時に点線をみせないようにするなら谷おり)
3. かどをあわせるようにして、組み立ててテープでとめる
(同じ番号を合わせる)

鉱物模型クラフト

琵琶湖博物館



つくりかた

1. 実線をはさみで切る
2. 点線にそっておる
(全部山おり、完成した時に点線
をみせないようにするなら谷おり)
3. かどをあわせるようにして、
組み立ててテープでとめる
(同じ番号を合わせる)

- 6 -

すいしょう (せきえい)
水晶 (石英)

—その2—